

新型コロナウイルス感染症を考慮した 知っておくべき避難のポイント

新型コロナウイルスの感染が完全に収束していない状況において災害が発生し、避難所を開設する場合には、感染症対策に万全を期することが重要となります。

しかし、災害時には断水により手指の洗浄が十分にできない可能性もあり、また、密集した避難所の環境下では感染症拡大のリスクが高まります。新型コロナウイルスが収束する前に災害が起きたらどうしたらよいのか、平常時から対応を考えておきましょう。

問合せ 危機管理課 ☎ 983・2751



◀避難所開設
訓練の様子

！ 避難とは「難」を「避」けること

安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。

！ 親戚や友人の家などへの避難の検討

自宅が危険な場合でも、避難先は市指定の避難所だけではありません。避難所が過密状態になることを防ぐため、安全な親戚や友人の家などに避難することも考えておきましょう。

※車中での避難を検討する場合は、市が災害協定を締結している伊豆フルーツパークの駐車場への避難も可能です。

！ 風水害時における事前避難の必要性の確認

浸水想定区域内であっても、浸水の深さによっては自宅の2階以上などへの垂直避難も可能です。洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップなどで自宅での安全確保が可能か事前に確認をしておきましょう。



！ 避難する前に検温の実施



避難する前に検温を行い、発熱などの症状がある場合は町内の地区集会所などではなく、避難所となっている学校に避難して、受付で「発熱をしている」と伝えましょう。

！ 手洗い、咳エチケットなどの基本的な対策の徹底

避難者や避難所運営スタッフは、頻りに手洗いするとともに、咳エチケットなどの基本的な感染対策を徹底しましょう。

！ 避難場所の衛生環境の確保

市の備蓄品にも限りがあります。避難所に避難する際は、自分の必要なものは自分で持参しましょう。

避難する場合持っていったほうが良いもの

ウェットティッシュ、マスク、タオル、てぬぐい(マスクの代わりに)、体温計、スリッパ、歯ブラシ、着替え、食糧、飲み物など

！ 十分な換気の実施、スペースの確保

避難所内については、十分な換気に努めるとともに、避難者が十分なスペースを確保できるよう留意します。避難者の方々にも換気の協力と、本当に避難の必要な人が避難場所に行けるよう配慮をお願いいたします。

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

！ ハザードマップ（被害予測地図）の確認

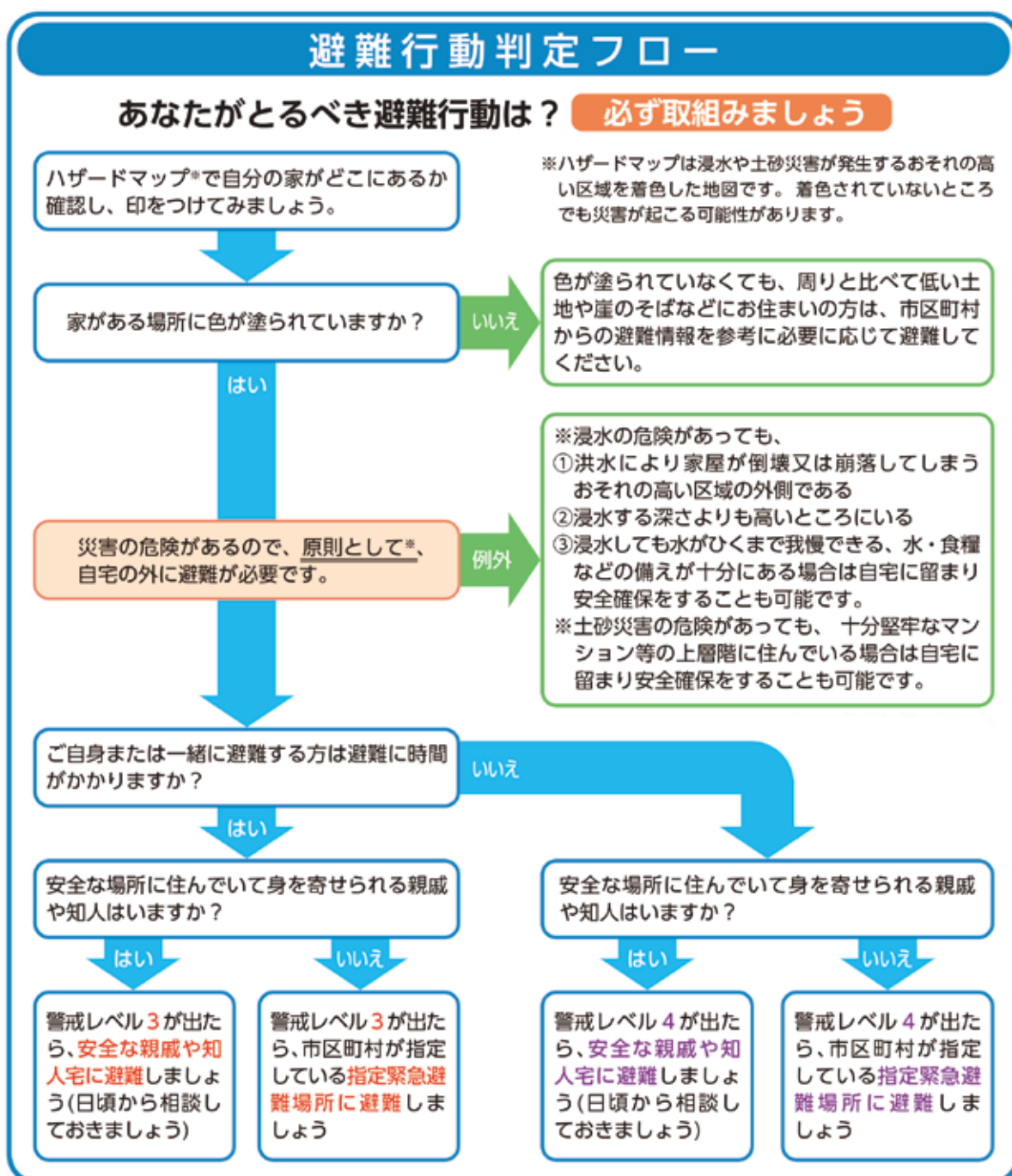
ハザードマップとは、災害発生で予測される被害範囲を地図化したものです。市ホームページから確認できます。
市公式ホームページ：トップページ→地震・防災情報→被害想定・地図→風水害



◀ホームページ
(ハザードマップ)

！ 避難行動判定フローの確認

避難行動判定フローとは、住んでいる地域の災害リスクや住宅の条件などを考慮したうえでとるべき避難行動や適切な避難先を判断できるようにしたものです。普段から「自分の命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと取るべき行動を確認しましょう。



▲出展：内閣府防災ホームページ「令和元年台風第19号等による避難に関するワーキンググループ」
<http://www.bousai.go.jp/fusuigai/typhoonworking/index.html>

